

Contini, Mila

5000 anni di moda.

Milano, Arnoldo Mondadori, 1977 (1965) (文献番号 3-61)

コンティニ著

モードの5000年

著者のコンティニは現役のイタリアのジャーナリストで、ファッション雑誌“Grazia”“Marie Claire”“Personalità”の編集長であり、国際家庭婦人ジャーナリスト協会の会長も務めている。

彼女の豊かな感受性とせいち(精緻)さを込めた本書は、1965年に初版がミラノのアーノルド・モンダドリ社から出版され、同年にはパリのアシェット社からフランス語版も刊行された。「エレガンスの5000年；古代エジプトから現代まで」(文献番号 3-61-②)がそれで、国立美術館講師のA. フォシェ＝アンリオンが仏訳し、服飾資料センター副会長のイヴォヌヌ・デランドル女史が監修、序文はパリ縫製組合名誉会長ジャック・エイムが記している。また、英語版も同じ年にロンドンのポール・ハムリン社より刊行されており、「ファッション；古代エジプトから今日まで」(文献番号 3-61-③)がそれである。英語版の編集はジェムズ・レイバー、序文は原書の英訳であり、更にロンドン王立美術学校服飾科教授ジュニイ・アイアンサイドが序言を記している。この英語版の和訳版は1971年に講談社から出版された。『ファッション；古代エジプトから現代まで』(文献番号 3-61-④)がこれで伊東達也監修、伊藤永子訳となっている。こうして三か国語に翻訳された初版のイタリア語の原書は入手できないため、1977年発行のイタリア語版に基づいて解題する。

1965年版に比べて大分簡潔に編集されたと思われる本書は、古代エジプト(B.C. 3100年ごろ)から1975年までの5000年に及ぶ服飾の流行を豊富な図版を駆使して時代別に展望している。序文は、イタリアの服飾デザイナーのエミリオ・プッチ伯爵による。彼は「私にとってモードとは歴史的な一定の時間の意味するものの展望であり、コンティニがここに提供した知的な興味ある記録は、正にそこに到達しうるものである」と述べている。使用された多くの図版は、古代の遺物、壁画、彫像、モザイク、中世の写本装飾、絵画、16世紀の肖像画、織物、レース、刺繍、17世紀の版画、18世紀のファッション・プレート、宝石、19世紀の風刺画、20世紀のファッション雑誌、ファッション・イラスト、そして現代のデザイナーによる作品を基にしている。巻末に写真の出典が付されている。今日では有史以前の人々の生活は、残された宝石や装身具でしか伺い知ることができないが、流行はエジプトで花咲き、そしてクレタ島からペロポネソス、ローマからビザンチンへと発展し、中世では流行は多くの大聖堂に映し出された。ルネサンスにおいては豪しや(奢)の頂点に達し、日の没することなきスペイン王朝の下では、豪華けんらん(絢爛)たる様相を示し、やがて流行の灯はフランス人の手に引き継がれ、世界中に広まり、今日のユニセックスな服飾流行へと移行した過程をジャーナリスティックな筆致で描写している。